

「忘れもの」定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

問1 「忘れもの」の詩はいくつの連でできていますか。漢数字で答えましょう。

問2 第一連のなかから、季節がわかることばを3つ、それぞれ3字以内で詩の中からぬき出して答えましょう。

問3 第一連の「素晴らしい夕立」とは、何がどうしたものでですか。次の文の（ア）～（ウ）に入るように、詩の中のことばを使って答えましょう。

「（ア）」のかわりに（イ）が
（ウ）たもの

【ア】

【イ】

【ウ】



問4 「忘れもの」の詩のテーマとしてもっとも正しいものを次の中から選び○でかこみましょう。

ア：夏休みの楽しかった思い出

イ：新学期が始まることを楽しみに思うきもち

ウ：夏休みが終わったことを残念に思うきもち

エ：忘れものをしてしまって、あわてるきもち

問5 第一連の中から、夏休みが終わってしまったことを残念に思うきもちが現れていることばを7字でぬき出して答えましょう。

問6 第二連の「けさ」とはいつのことですか。次の中から選び○でかこみましょう。

ア：夏休みが始まった朝

イ：夏休みが終わる日の朝

ウ：夏休み中のある日の朝

エ：新学期の朝

問7 第三連の「キミ」とは誰（何）のことですか。詩の中からぬき出して答えましょう。



問8 「忘れもの」とはどんなものですか。詩の中から3つ、ぬき出して答えましょう。

問9 「忘れもの」の詩のなかで、「ぼく」のきもちが一番よく表現されている連を漢数字で答えましょう。

問10 「夏休みはいつってしまった…素晴らしい夕立をふりまいて」や、「もどってこないかな 忘れものをとりにさ」のように、ふつうとはことばの順番が入れかわっている部分がありますが、これはどんな効果を生み出していますか。次の中からもっとも正しいものを選び○でかこみましょう。

ア：読む人の印象に残るようにしている

イ：詩が不思議で面白いものを感じる

ウ：夏休みがまるで生き物のように感じる

エ：きまったリズムが生まれるようにしている



「忘れもの」定期テスト対策練習問題（解答）

問1 四

【解説】「連」とは、「大きなひとまとまり」のこと。
「忘れもの」の詩は、大きく4つのまとまりでできているので、連の数は四が正解。

問2

- ・入道雲
- ・夏休み
- ・夕立

※順番はどれが先でもOK。

【解説】入道雲は、夏にできる雲。夕立は、入道雲が降らせる夏の雨。夏休みも、夏ということがわかることは。

問3 【ア】 サヨナラ 【イ】 夏休み
【ウ】 ふりまい

問4 ウ

問5 いってしまった

【解説】 「いった」ではなく、「いってしまった」ということばが使われていることで、夏休みがいってしまったことを残念に思うきもちが伝わる。



問6 エ

【解説】 第一連で、「夏休みはいつってしまった」と書かれていることから、夏休みはもう終わってしまっているね。「あたらしい光」ということばからも、あたらしい一日のスタート、つまり新学期の日の朝と考えることができる。

問7 夏休み

【解説】 「だがキミ！ 夏休みよ」とあるように、「夏休みよ」と続いていることから、キミとは夏休みのことであることがわかる。

問8

- ・ 迷子のセミ
 - ・ さびしそうな麦わら帽子
 - ・ ぼくの耳にくっついて離れない波の音
- ※順番はどれが先でも良い。

【解説】 「波の音」だけでは×になることもあるので、「ぼくの耳にくっついて離れない波の音」まで答えたほうが安心。

問9 三

【解説】 「忘れもの」の詩のテーマは、夏休みが終わってしまったことを残念に思うきもち。第三連では、終わってしまった夏休みが「もう一度もどってこないかな」と「ぼく」のきもちが一番ハッキリと表現されている。



問 10 ア

【解説】 ことばの順番をいれかえる表現を、「倒置法」といって、読む人の印象に残る効果がある。

ウは、「夏休みはいつってしまった」というような表現の方法のこと、

エは、「ずっと5文字」など、きまった文字数でくりかえしたりする詩の表現の方法のこと。

